

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200128		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家佐太中町		
所在地	大阪府守口市佐太中町7丁目10-20		
自己評価作成日	令和3年11月25日	評価結果市町村受理日	令和4年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な生活ができ、自分らしく楽しく生きる。</li> <li>・今出来ていることの維持ができるように、生活リハビリを中心に一日3回のモップかけや洗濯干・取り込み・たたみを行っています。</li> <li>・炊事は包丁やはさみを使用したり盛り付けをされたりと、それぞれ個々の状態に合わせて共に行っています。</li> <li>・月2回第1火曜日に行う、カラコロ体操教室を実施しています。</li> <li>・コロナ感染症予防の為、外出が不可だったが、少しずつ緩和され近くの神社などに天気の良い日は散歩に行き下肢筋力低下を防ぐと共に、気分転換を図る機会を増やしています。</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近隣に緑豊かな佐太天神宮がある、閑静な住宅地に立地している。職員全員で作成した年間ビジョン「家庭的な生活：自分らしく、楽しく、生きる」をもとに、生活リハビリ・家事参加・レクリエーション・体操教室等、日常生活の中で楽しみや役割を感じながら、心身機能の維持向上が図れるよう取り組んでいる。手作り調理を継続し、行事食・手作りおやつ・デリバリー等、食事が楽しめる機会作りを行っている。家族に、「佐太中だより」「日々の便り」を毎月郵送し、写真と文書で利用者の様子を伝えている。毎月のフロア会議・全職員が受講できるオンライン研修・人事考課制度等で職員の資質向上と連携に努め、権利擁護や接遇について意識向上に取り組んでいる。医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護にも対応している。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は相談室に掲示し、玄関にも置き観覧できるようにしています。	「施設理念」・施設の「年間ビジョン」を作成し、施設の「年間ビジョン」に地域密着型サービスの意義を明示している。玄関・各フロア・相談室に掲示し共有を図っている。「年間ビジョン」の具体的な内容を利用者の日課に取り入れ、実践に取り組んでいる。また、期末に振り返りシートを職員全員に配布して実践状況を振り返り、次の「年間ビジョン」作成時にも職員全員の意見を集約し実践につなげている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での夏祭りや秋祭り・盆踊りなど参加していたが、現在コロナ感染予防対策のため中止している。	自治会に加入し、自治会長の協力を得ている。通常は、散歩や買い物での地域への外出、地域行事・小学校行事・清掃活動への参加、ボランティアの来訪、カラコロ体操での交流等、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組んでいる。コロナ禍のため、外出や交流を休止しているが、終息後は再開する予定である。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物で外出をすることにより、認知症に対する理解を深めています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議も書面開催となっておりますが、ご家族様・地域の方には書面にてご報告しています。	家族・地域包括支援センター職員・事業所職員を構成委員とし、2ヶ月に1回開催している。コロナ禍のため令和3年度は職員のみで開催し、報告書(利用者状況・人員体制・ヒヤリハット事故事例・研修・身体拘束適正化委員会・今後の取り組み)を家族に郵送し、地域包括支援センターに持参している。地域包括支援センターから返信された意見や情報も記載した議事録を、くすのき広報連合に提出している。議事録ファイルを玄関に設置し、公開している。	令和4年度から、地域代表として自治会長、知見者として他事業所の介護支援専門員の参加を予定している。利用者も構成委員であるので、会議再開後は、短時間参加も含め、可能な範囲で利用者の参加も促すことが望まれます。また、書面会議でも構成委員の意見・情報交換が行えるよう、報告書に「意見・情報用紙」を同封してはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	くすのき広域連合・市役所介護高齢課に相談している。	運営推進会議を通して、地域包括支援センター・くすのき広報連合と連携がある。市内のグループホーム連絡会・ケアマネ連絡会の開催があれば参加している。福祉的支援が必要な利用者については、市の福祉課と協働して支援している。相談や報告の事案があれば、市役所やくすのき広報連合に、適宜相談や報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年の研修では、必須項目のため、受講し周知しています。	「身体拘束適正化のための指針」を整備している。毎月のフロア会議で身体拘束適正化委員会を実施し、人感センサー・センサーマットの適正使用について検討している。スピーチロック等不適切ケアについては、フロア会議での虐待の芽チェックの中で検討し、未然防止に取り組んでいる。議事録を各フロアで供覧し、周知を図っている。法人の年間研修計画に沿ったオンライン研修で、年に2回「人権及び虐待・身体拘束防止研修」を実施し、報告書の提出により受講を確認している。フロアの入り口、玄関は施錠しているが、利用者に外出の希望があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように配慮している。	

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年の研修では、必須項目のため、受講し周知しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を理解し外部研修などの参加の促し、全職員が周知できるようにしたいと思います。実際に成年後見人制度をされている方もおられます。		
9		gy 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ゆっくりと説明を行い、質問や疑問があれば、いつでも説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見をいただけるようにしています。また運営推進会議でもご意見頂戴しています。	時期や状況に応じて方法を工夫しながら、家族の来訪や面会時に、また、電話連絡時に利用者の近況を報告し、意見・要望の把握に努めている。玄関に意見箱も設置している。毎月、フロアの行事や利用者個々のADLを記載した「日々の便り」と写真を多く掲載した「佐太中だより」を、また、2ヶ月に1回、運営推進会議の報告書を郵送し、家族が意見・要望を表しやすいように努めている。法人が年に1回実施する家族満足度調査の結果も、家族の意見として運営やサービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設会議で意見を聞いています。	毎月フロア会議を実施し、事故ヒヤリハット・5S・ケアカンファレンス・虐待の芽チェック・身体拘束適正化・感染症対策等について、職員が意見・提案を出し合って検討している。日々の共有事項・検討事項については、連絡ノートで共有している。目標管理、「だれのびシート」についての個人面談、随時の面談等、管理者が職員の意見を個別に聴く機会も設けている。法人による年1回の従業員満足度調査でも、意見等の把握に努めている。	

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社による年に1回の従業員満足度調査やキャリア段位制度により、働きやすい職場にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員体制や勤務体制によるが、研修参加に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2ヶ月に一度、同市内グループホーム連絡会などの参加を、今後は職員を含め事業所交流を図っていきたいと思います。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の施設見学などをして頂き、不安や要望を伺い、安心して入所していただけるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前や開始後、ご家族様に日常生活の報告をし、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接でしっかりと話を伺い、ご本人様のニーズに応じたサービスが必要かを心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様同士の関係を大切に、炊事や洗濯・掃除を生活リハビリとして共に行い関係づくりに努めています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にし、ご本人様本位の支援ができるように、一緒に考えていくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会不可の状態の時はリモート面会を行い、現時点では面会が可能になり居室にてゆっくり過ごしていただき関係性が途切れないように努めています。	通常は、家族・親戚・友人等の来訪があれば居室でゆっくり過ごせるよう配慮し、自宅・馴染みの美容院等への家族との外出を支援する等、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。コロナ禍のため、外出は休止しているが、時期や状況に応じて方法を工夫しながら、家族との面会はできるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関わりに配慮し、孤立せずに自然なかかわりができるように支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際、何かお困りの事があれば連絡下さいと伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の意向を、くみ取りながら本人らしい生活ができるように、常に話し合い実践しています。	利用者の思いや暮らし方の希望等について、入居時に把握した情報があれば、フェイスシートやアセスメントシートに記録している。入居後のコミュニケーション等で把握した情報は、支援経過記録に記録し、連絡ノートで共有している。把握が困難な場合は、日々の様子を観察しながら表情や反応から汲み取ったり、家族からの意見を参考に、把握に努めている。把握した思いや意は、介護計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。	

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様との会話の中から生活歴を伺い、職員に情報共有していません。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子を観察し、記録や連絡ノート申し送りを活用し、把握できるように周知しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を作成するにあたって、毎月の会議にて意見を出し合い確認をとり作成しています。	フェイスシート・アセスメントシートをもとに、初回の介護計画を作成している。サービスの実施状況は、タブレット内のサービス記録や、介護記録に記録している。定期的には6ヶ月1回、必要時には随時、介護計画の見直しを行っている。介護計画を見直す際は、「評価票」によるモニタリング、「ケアチェック表」による再アセスメントを行い、サービス担当者会議で検討している。	計画書ファイルを各ユニットに設置する等、職員全員が利用者個々の介護計画に関する理解を深め、計画にもとづいた介護記録につなげることが望まれます。PDCAサイクルにもとづくサービス管理が明確になるよう、各種書類の整備、ファイリングの工夫が望まれます。サービス担当者会議の議事録に、家族や主治医等関係者からの意見を記録に残すことが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様それぞれのケア記録に残し、申し送りなどで情報を共有し意見交換をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様及びご家族様からのニーズに柔軟な対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内にある神社には、花や池があり、行く機会を増やしています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月第2木曜日訪問診療により、支援しています。	契約時に意向を確認し、利用者・家族の希望に沿った受診を支援している。協力医療機関による月2回の訪問診療、週1回の訪問看護を受けられる体制があり、24時間の連絡体制もある。訪問診療の前日に事業所から医師と薬局に「往診表」で情報提供し、受診内容も「往診表」に記録している。訪問看護師は健康管理と主治医との連携を行い、「訪問看護記録」に記録している。通院については、家族が同行し、事業所は送迎の支援を行っている。訪問診療・通院について、介護記録・支援経過記録に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日訪問看護にて支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と情報交換を行い関係づくりを密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約でご家族様には施設の方針として看取り介護を行っていることを説明しています。	契約時に「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。重度化を迎えた段階で医師・家族・管理者・フロアリーダーがカンファレンスを行い、医師が状況を説明し、家族の意向を確認している。家族に看取り介護の希望があれば、「看取り介護の同意書」、看取りに向けた「介護計画」に同意を得て家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。経過については、介護記録と支援経過記録に記録している。「看取り研修」も実施している。	

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時の対応には、落ち着いた対応ができるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。	年に2回避難訓練を行っている。令和3年度は、7月に昼間想定火災対応訓練、11月に夜間想定火災対応訓練と地震対応訓練を行っている。11月の訓練には消防の立ち合いがあり、助言を受けている。訓練後は報告書を作成し、各フロアで回覧し周知を図っている。また、新入職員を中心に、全員が経験できるよう参加者を調整している。町内会長等、近隣から協力を得やすい環境である。備蓄は、法人から支給があり、事業所でも準備しており、法人と管理者が管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待防止研修を行っていると共に会議などで話し合い、尊重や尊厳を損ねない言葉使いができるように気をつけています。	「コンプライアンス・接遇マナー研修」「認知症ケア研修」等で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。フロア会議の「虐待の芽チェック」で、不適切ケアにつながる対応がないかを確認している。「だれのびシート」で接遇についての振り返りを行い、個人面談で意識付けを行っている。個人記録類はスタッフルームの施錠できる書庫に保管し、写真・映像の使用については契約時に文書で意向を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様それぞれの状態に合わせて自己決定をしていただいています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様本位で物事を考えるようにし、レクリエーションなどの工夫を行い、ご利用者様らしい生活ができるよう取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々でお好きな洋服や装飾品などを、身に付けられています。また、ご家族様にもご相談しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け・食器洗いを職員と共に行っています。	委託業者から献立と食材が届き、各フロアで手作り調理した食事を提供している。献立には季節感や行事食が配慮されている。個別の食事形態について介護計画にも位置づけ、各フロアで対応している。調理・盛り付け・食器洗いへの参加も介護計画に位置づけて、役割づくりを支援している。おやつレクリエーションとして利用者の希望も取り入れて、手作りおやつの機会を設けている。外食レクリエーションは休止しているが、デリバリー等を活用し、変化が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量の接種をもとに、摂取していただき少ない方には、声かけ行うなどしています。食事に関しては、食材会社からの管理栄養士のメニューをもとに調理をし摂取していただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、職員がつきそいをし声かけをし、仕上げを行っています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ていることは継続できるようにサイクルや行動を把握しトイレ導入を行っています。	タブレット内の排泄記録で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛け誘導し、昼間はトイレでの排泄を支援している。身体状況に応じて、2人介助でも対応している。夜間は安眠にも配慮し、利用者個々の状況に応じた介助を行っている。検討事項があれば都度検討し、連絡ノートで経過も共有しながら、現状に即した介助方法や排泄用品の使用につなげている。ドアを閉める、タオルをかける等、プライバシーへの配慮について周知を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保に努め、一人一人の排泄の状況に応じて、医療機関と連携を図り、下剤でコントロールすると共に体を動かす予防に心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本はありますが、個々の希望に合わせて対応できるようにしています。	週に2回、午前・午後の入浴を基本とし、利用者の体調・気分等に応じて柔軟に対応している。身体状況に応じて2人介助やシャワー浴を行い、同性介助の希望には同性で対応し、また、入浴拒否についてはタイミングや声かけを工夫する等、利用者個々に応じた配慮を行っている。入浴状況は、タブレット内の入浴記録で確認している。一人ずつ浴槽の湯を入れ替え、ゆっくり入浴できるよう支援している。ゆず湯・しょうぶ湯で季節感を、入浴剤で変化を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や寝具は清潔が保てるように環境整備を行い、気持ちよく休めるようにしています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関との連携を図り、往診日には薬剤師も来られ薬の状況確認し、変更などの場合全職員に申し送り送り周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを中心に、役割をもった生活ができるように、洗濯や炊事・掃除など日々行いハリのある生活ができるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出や地域の行事が中止になっている。近くの神社などには散歩に行っている。	通常は、散歩・買い物・ドライブ・季節の外出・地域行事・遠足等、外出支援を行っている。コロナ禍のため外出を休止しているが、屋上や玄関前での気分転換や、近隣の散歩は行っている。今後、状況を考慮しながら、外出を徐々に再開する予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様のお金は事務所にて保管しており必要に応じて嗜好品や日用品を一緒に行き購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に手紙を書かれたり、テレビ電話などでご家族様との関係を保てるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはソファを設置し、くつろげられる空間をつくり、玄関には季節の花を置き、メダカを飼育し季節感を取入れるなどの工夫をしています。	共用スペースは明るく、テーブル席・ソファを設置し、思い思いにくつろげるよう配慮している。季節の装飾品や、利用者と一緒に制作した季節の作品を飾り、季節感を採り入れている。キッチンから手作り調理の音や匂いを感じたり、調理・掃除・洗濯等の家事参加を支援し、生活感を採り入れている。屋上で外気浴やラジオ体操をしたり、玄関前のプランターに水やりをする等、共用空間として活用している。	

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを設置し、テレビを見たり 自席にて他の入居者様との雑談を楽しんだりしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具やご家族様の写真などを置かれ、居室で過ごしやすい工夫をしています。	各居室には、ベッド・クローゼット・ナースコール等が設置されている。筆筒・テレビ・テーブル・人形・家族の写真・仏壇等、使い慣れたものや馴染みのある大切なものが持ち込まれ、居心地よく過ごせる環境づくりが行われている。塗り絵・書道など、自身の作品も飾られている。居室担当職員が中心となり、衣替えや整理整頓など、環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア・浴室・トイレには手すりを設置しており安全に生活ができるように工夫をしています。また、生活リハビリを行い炊事や洗濯など職員と共に行い自立した生活が送れるように支援しています		